

あさみ いせき 朝見遺跡（第5次） その3

所在地：松阪市 立田町・和屋町（まつさかし たつたちょう・わやちょう）

位置情報URL：[三重県地図情報サービス](#) [朝見遺跡発掘調査現場](#)

弥生時代の方形周溝墓が見つかりました！

現在、1区・2区の発掘調査を進めています。

1区では、弥生時代末につくられた方形周溝墓が2基、見つかりました。

1区に隣接する瀬干（せぼし）遺跡では、1998年までの発掘調査で方形周溝墓が8基見つかり、これらと一連の遺構群になるのではないかと推測されます。

弥生時代の墓域が、これまでの想定以上に広い範囲におよぶことが明らかになりました。



方形周溝墓の様子（1区の南側より）

方形周溝墓が2基、並んで見つかりました。遺体が葬られていた墳丘は壊されていて、周りを囲む溝だけが残っていました。

なお、中央に見えているのは平安時代の水路跡です。



方形周溝墓 1

後世の溝に一部壊されていました。墳丘の大きさは、一辺がおよそ6～7mになると考えられます。



方形周溝墓 2

周溝の深さは0.6～0.8mで、方形周溝墓の周溝としては深めです。周溝が深いのは、隣接する瀬干遺跡と共通する特徴です。



また、周溝内からは広口壺や高坏が発見されています。

方形周溝墓とは？

平面が方形の墳丘を溝で囲んだ墓で、墳丘には木棺などが納められます。墳丘の大きさは、一辺が数mのものから20mを超えるものまで差があります。

弥生時代中期には、1つの遺跡に数百基が群集することもあります。弥生時代末に近づくにつくられる数やそこに葬られる人数が減る一方で、副葬品をもつものが現れるなど、次第に有力者の墓へと変化していったようです。そして、それが次の時代につくられる古墳へつながっていくと考えられます。

<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
三重県埋蔵文化財センター調査研究1課
担当者：櫻井・谷口・森・嶋田
電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035
E-mail：maibun@pref.mie.jp